

進路のパズル 第6ピース「2020年度一般入試まとめ」

令和2年7月8日
都立小松川高校進路指導部

1 2020年度入試まとめ

2021年度入試には大学入学共通テストの導入をはじめとした入試改革が控えており、既卒性に対する移行措置はとられない方針が示された。これを受けて、特に2020年度入試では国公立大・私立大を問わず安全志向が強くみられた。国公立では志願者数が対前年指数94と減少した。難関国立大（北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、九州大学）とブロック大（筑波大学、千葉大学、横浜国立大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、広島大学、熊本大学、東京都立大学、大阪市立大学）も対前年指数94と減少した。私立大学の一般入試の志願者数は対前年指数97と減少した。特にセンター試験方式の合格が難しいことが予測された結果、センター試験方式の志願者数が対前年指数91だった。首都圏の大規模私立大学の志願者が軒並み減少した。私立大学では2016年入試以降から入学定員の厳格化により合格者数の絞り込みが始まり、受験生にとって合格がしづらい状況が続いていたが、落ち着いてきた感がでてきた。下の「MARCH文系学部における偏差値60～65の受験生の合格率の推移」を見てもらうと2020年度は少し上がっているのがわかる。また、首都圏の大学の志願者数が減った要因として新入試への不安から安全志向のため地元大学（地方大学）の出願者数が増加したこと、推薦・AO入試で早めの合格を目指した学生が多かったことが挙げられている。

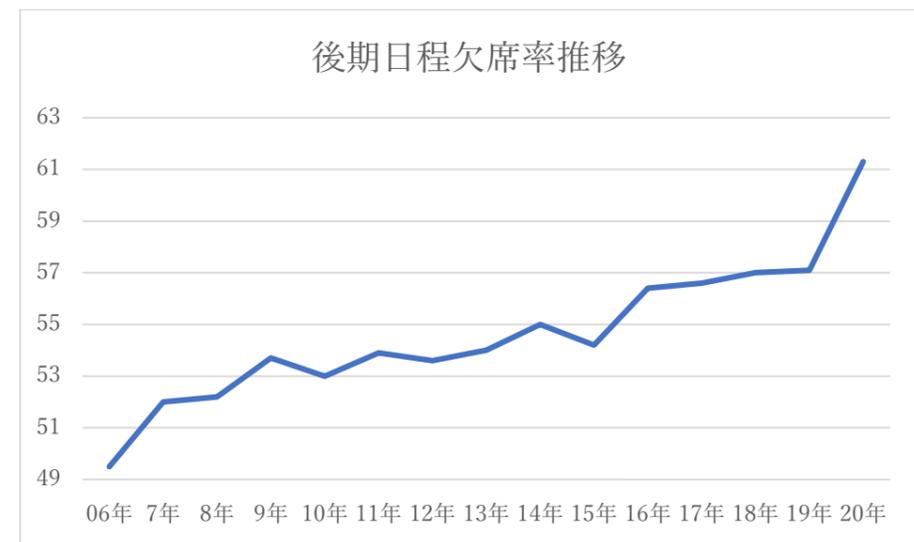
国立大学	志願者数対前年比	私立大学	志願者数対前年比
難関国立大学	94%	早慶上理	93%
ブロック大学	94%	MARCH	92%
		成成明國武	86%
		日東駒専	90%

MARCH文系学部における偏差値60～65の受験生の合格率の推移

偏差値60～65	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
一般方式	30%	23%	20%	22%	25%
センター方式	30%	24%	16%	20%	23%

国公立大学の後期日程の欠席率が上昇

国公立大学の後期日程の欠席率は年々上昇を続けている。2020年度入試では新型コロナウイルス感染症の影響で後期日程を中止した大学もあるため単純比較はできないが、後期日程の欠席率が61.3%と大きく上昇した。新入試を控えた安全志向によって、前期日程で進学先を決めてしまいたいという慎重な出願や後期日程の受験をせずに私立大への進学を決める動きが強まったことが、欠席率の上昇の要因として感られる。本校では、後期日程まで粘り続けた受験生の多くが国公立の合格を手に入れている。最後まで粘り続けることの重要性を再確認できる。



*実施大学・学部数は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、後期日程試験を実施しなかった国立大学6大学・21学部、公立大学2大学・2学部を含まない。

2 センター試験結果

最後となったセンター試験は、次の共通テストの影がチラつくテストだった。受験生にとっては過去問と違う傾向の問題にかなり手を焼いたようである。平均点は英語で-10点、数学ⅠA・ⅡB-12点と大幅に下がった。7科目では約20点（2%）下がった。大学入学共通テストの試行調査（プレテスト）で傾向をよく見ておく必要がある。

科目	国語		世界史B		日本史B		地理B	
	全国平均点	全国平均前年との差	全国平均点	全国平均前年との差	全国平均点	全国平均前年との差	全国平均点	全国平均前年との差
区分	121.6	-2.22	64.4	-2.39	66.3	1.91	66.9	4.32
科目	現代社会		政治・経済		倫理・政治・経済			
区分	57.9	0.54	54.6	-2.49	68.1	2.29		
科目	数学Ⅰ 数学A		数学Ⅱ・数学B					
区分	53.6	-7.8	50.5	-4.18				
科目	物理基礎		化学基礎		生物基礎		地学基礎	
区分	33.9	2.71	28.9	-3.02	32.7	1.11	27.7	-2.59
科目	化学		生物		地学		物理	
区分	56.7	0.12	59.4	-5.33	42.9	-6.83	62	3.74
科目	英語		英語・リスニング					
区分	119.1	-6.99	29.4	-2.64				